

「草津宿本陣歴史資料調査」 平成30年度の成果をお知らせします！



草津市教育委員会では、平成30年6月より、草津宿本陣に残されてきた歴史資料について、包括的・本格的な調査を開始しています。

今回の調査は、草津宿本陣に残されている歴史資料全体を対象とし、目録を作成して、活用できるようにすることを目指しています。同時に、江戸時代から現在まで大切に守られてきた貴重な文化財を、将来にわたり保存していくことも目的としています。

◆今年度の成果

- ・当初、約8,600点と見込んでいた調査対象の総点数が、**約14,000点**にのぼることがわかりました。また、内容も本陣経営に関するもののみならず、宿場の運営、年貢納入など、非常に多岐に渡ることが改めて確認できました。
- ・草津宿本陣の歴史を物語る、新たな資料が多数発見されました。

従諸公様拝領物控（しょうこうさまよりはいりょうぶつ ひかえ）

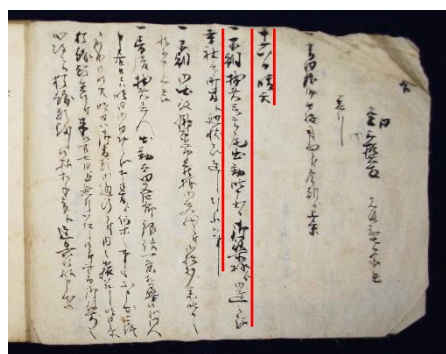
本陣利用時に、大名らから下賜された拝領物を書き上げた帳面。記入されている中で最も新しい年号が「嘉永四年（一八五一）」であるため、これ以降に記されたものだと考えられます。

「元禄六年 御上下（袴）一具 松平若狭守様」など、内容は本陣に残る大福帳の記載と一致していることから、大福帳からの書き抜きである可能性があります。当時、江戸時代を通した本陣の記録が整理し直されていたことをうかがわせます。

役中日記

嘉永五年（1852）のもの。草津宿の役所である問屋場における、業務日誌にあたるものと考えられ、日付と天候、その日の業務内容などが記されています。

赤線部：「十六日、晴天。早朝、拙者（田中氏）ならびに高尾出勤、昨十五日に御役所様から通達のあった内容を、寺社・町方へ廻状にて通知した」



絵図具（8点）

竹製の道具。片面に「一寸二分ニ六分」、もう片面に「一間ニ二間」などと書かれており、間取り図などを描く際に定規のように使われたものと思われます。側面には墨が残り、実際に使用されていたことが窺えます。



◆「草津宿本陣歴史資料」とは

「田中七左衛門本陣」を営んだ田中家には、江戸時代以来、多くの歴史資料が保存されてきました。建造物と歴史資料が合わせて現存する充実した交通史関連資料として、全国的にも貴重な資料群であると評価されています。



◆調査の目的



「草津宿本陣歴史資料」のうち、大福帳や関札をはじめとする重要な資料については過去に調査・分析が行われており、江戸時代の本陣や宿場の運営を知る上で貴重な資料となっています。

当主が代々「七左衛門」を名乗った田中七左衛門本陣は、本陣経営の傍ら材木問屋を営み、草津宿の庄屋や問屋役人も務めていました。このため、草津宿本陣歴史資料には、参勤交代などの通行に関するだけでなく、宿場の運営や当時の人々のくらしに至るまで、様々な資料が含まれています。この面からも、草津の歴史がさらに明らかになる新たな発見が期待できます。

最終的な調査成果は調査終了後に報告書として刊行するほか、重要な資料はインターネットなどで公開して、皆様に広くご覧いただく予定です。

◆調査の概要

・調査対象

草津宿本陣歴史資料 総点数 約 14,000 点
うち、古文書資料約 10,000 点、関札・袷など約 3,600 点

・調査期間 平成 30 年 6 月～平成 33 年 3 月（予定）

・調査体制（敬称略）

調査委員長 渡辺 和敏（愛知大学 名誉教授）
調査委員 有坂 道子（京都橘大学 教授）
東 幸代（滋賀県立大学 教授）

調査代表者 八杉 淳（草津宿街道交流館 館長）

調査担当者 草津宿街道交流館 学芸員

他、調査補助員を大学生・大学院生等に依頼



↑未整理の古文書類。内容を1点ずつ解読し、年代・差出人・材質、大きさやページ数などの詳細なデータをとります。



※この調査は、「文化庁 地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業国庫補助金」の交付を受けて実施しています。